

令和5年度 教育活動等に対する学校評価書

令和6年3月6日 学校法人大村学園 かわはらいづみ幼稚園 園長 稲葉 博
 学校関係者評価委員長 川口迪也

- 1 幼稚園の教育目標 明るく元気な子 ～ 明るくたくましい心身共に健康で情操豊かな人間としての基礎をつくる ～
 ① 元気に登園する子 ②友だちとなかよく遊ぶ子 ③元気にあいさつをする子 ④好き嫌いをしないで食べる子
- 2 本年度の重点目標 計画性のある保育実践・笑顔で保育実践・信頼される保育実践
- 3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果 (A・十分に成果があった B・成果があった C・少し成果があった D・成果がなかった)

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	反省と改善策	評価点	意見
教育目標	教育目標の具現	A	本園では、教育目標「明るく元気な子」を目指し、人・もの・ことの関りを通して、子ども一人一人の人間形成に努めている。 子どもたちが嬉々として登園し、教師や友だち、遊具や玩具、環境と関わり合いながら楽しく遊ぶことを第一義に全職員で共通理解を図り、子どもの活動や遊びの環境構成を工夫している。 今後も、教育目標の具現をめざし教育の質の充実を図っていきたい。	A	評価委員が園を訪問した時も、思い思いに遊び浸る子どもたちの姿が見られた。友達と一緒にふれあいながら生き生きと遊ぶ園児の姿もあちこちで見られた。こうしたことから、目標の達成度は高いと評価できる。 今後とも、教育目標を意識した教育経営を推進して行ってほしい。
本年度の重点	計画性のある保育実践	B	昨年度までの長きに渡り新型コロナウイルスによる感染が収束せず、教育計画を見直し、変更したり、事業を縮小したりせざるを得なかったが、今年度は、以前のような計画に戻し、実施した。その結果、実施方法が不明であったりと、不備な部分も散見され課題となった。	B	長期に渡りコロナの感染が収束せず、教育活動にブランクが生じたが、また、以前のような計画に戻し、実施し、その中で、色々な課題が浮上している。こうした機会に、改めて事業を見直す機会ともとらえることができるだろう。一度に全て見直すのではなく、可能な範囲で見直していくのはどうでしょうか。
本年度の重点	笑顔で保育実践	A	教職員が、常に笑顔で、優しい言葉掛けを実践することで、子どもや保護者との信頼関係や良好なコミュニケーションが生まれ、互いの信頼が深まる。今後も「和顔愛語」の精神、「子どものよさや努力を認め伸ばす気持ち」を忘れずに保育や接遇に臨んでいきたい。	A	本園の先生方の素晴らしいところは、いつも笑顔を忘れず、どの子どもにも優しく接してくれるところです。そのため、どの子どもも安心して園生活を送ることができています。こうした子どもの姿から、親の幼稚園への信頼が生まれます。「教師は最大の教育環境である」といわれるように、保育者は常に笑顔で子どもの保育に当たってほしいと思います。
本年度の重点	信頼される保育実践	B	保護者と意思疎通を密に図ることはとても大切なことである。 今年度は、「コロナ感染予防」をはじめ「園バス送迎時の事故防止の対応（園児の置き去り防止緊急ブザーのバス内設置）」「園内における園児の怪我や事故防止」に神経を使った。 そうした中で分かってきたことは、実際にマニュアル通り実践してみた上で見直し改善し実用化を図り教職員全体で共有することである。 常に危機意識を忘れない教職員体制を整えておきたい。	A	保護者と幼稚園との意思疎通の重要性については全く同感であり、今後とも密に連携をとっていきたくと願っています。 特に、登降園時の安全確保や園内での安全管理については常にアンテナを高くして、予防し、子どもたちの安全確保に努めてほしいと願っています。
子育て支援	預かり保育 (あさやけ教室、 ゆうやけ教室)	A	預かり保育（「あさやけ・ゆうやけ教室」）では、時代のニーズ並びに保護者の要望に対応し、預かり時間を朝8時から夕方18時まで延長するなど改善し喜ばれている。さらに、夏休みや冬休み・春休み等の長期休業中も「開室日数」を大幅に増やすなど改善を図っている。 しかしながら、教職員の勤務時間等との関わりでシフトの組み方等に工夫がいるため、苦慮しているところでもある。	B	預かり保育は、保護者のみならず子どもたちにとっても好評な事業です。異年齢の友達と触れ合ったり、日常の保育では味わえないようなアットホームな遊びを存分に体験できる魅力もあります。 一方、保護者の側からすると、保護者のニーズに応え、「開室時間」や「開室日数」の拡張等改善を図ってくださっていることはおおいに評価できます。その際、教職員の皆様の勤務シフトが円滑に進むことを願っています。

4 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
「計画性のある保育実践」の遂行と行事の吟味	今年度は、新型コロナウイルスによる感染拡大が収まりをみせたこともあり、運動会や生活発表会等の行事内容を従来のように復活させた。 しかしながら、4年ものブランクもあり、手順が不明確であったり、教職員同士の意思疎通がうまくいかなかったりと、反省すべきところが多々見られた。 今後は、こうした反省点を生かして、更なる教育内容の充実を図っていきたい。

